

2013年 夏のオープンキャンパスの日程が決まりました。

- 8月26日(月) 工学部
- 8月27日(火) 理学部
- 8月28日(水) 教養学部
- 8月29日(木) 教育学部
- 8月30日(金) 経済学部

- 詳細は、決まり次第(6月頃)ホームページでお知らせします。
- 事前の参加申込が必要になります。
- お申し込み方法・期間は、7月中旬に掲載する予定です。

<http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/open.html>



研究者たちの素顔Vol.3を掲載しました

世界に誇る独創的な研究を紹介する「研究者たちの素顔 Vol.3」をホームページに掲載しました。研究者たちの熱き想いと探求心の成果は、一つひとつが新たな価値創造のメッセージとして地域へそして世界へと飛翔していきます。ぜひ、ご覧ください。

URL <http://www.saitama-u.ac.jp/iron/keyaki/?a>



なお、トップページにバナーを用意しておりますのでこちらをクリックしてください。



埼玉大学/読売新聞社さいたま支局 共催

連続市民講座「埼玉学のすすめ part4 ー共に探求する「知」ー」を開催します

- 開演/14:00~(開場/13:00~) ●会場/埼玉大学全学講義棟1号館3階1-301講義室
- 定員/400人(定員を超えた場合は別室にてモニター受講となります)
- 対象/どなたでも受講できます。高校生、大学生の皆さんも是非ご参加下さい。
- ※5回以上受講された方に修了証書を差し上げます。また、全6回受講された方には講演録を差し上げます。
- 問い合わせ先/埼玉大学総務課 TEL.048-858-3927・3005



- 第1回 7/27 武田ちあき | イギリス学校小説の現在  
14:00~15:40 教育学部准教授 | ー地域で育む子どもの個性ー
- 第2回 8/24 一ノ瀬俊也 | 第二次大戦時、浦和への爆撃予告ビラ  
14:00~15:40 教養学部准教授
- 第3回 9/28 円谷陽一 | 大麦β-グルカンと健康  
14:00~15:40 大学院理工学研究科教授 | ー植物多糖と機能性食品の開発ー
- 第4回 10/26 石戸教嗣 | 埼玉県におけるニューカマーの子どもたち  
14:00~15:40 教育学部教授 | ー教育支援のネットワークー
- 第5回 11/16 渋川雅美 | ささまざまな分析数値はなぜ信頼できるのか  
14:00~15:40 大学院理工学研究科教授 | ー分析法の開発を通して見る分析値取得までの道のりー
- 第6回 12/14 後藤和子 | クリエイティブ産業の経済学:  
14:00~15:40 経済学部教授 | 契約・著作権・税制のインセンティブ設計

受講料無料  
事前申込不要

編集後記

「サイダイコンシェルジュ-SU NewsLetter」創刊号はいかがだったでしょうか。埼玉大学の旬な情報をお届けできたと思っております。編集にあたり本学の素顔を知っていただきたいという思いを込めました。これからも皆さまにとって有益な情報提供を心がけ、お役に立てるものをお届けすべく、スタッフ一同頑張っております。

この冊子に関するご意見やご質問は、埼玉大学総務課広報室までお寄せください。

サイダイコンシェルジュ SU NewsLetter vol.1 平成25年5月発行

- 編集発行 埼玉大学総務課広報室
- 企画・制作 コスモプリンツ(株)プランニングチーム
- 問い合わせ先 埼玉大学総務課広報室  
〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057  
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp  
URL <http://www.saitama-u.ac.jp>



共生のVision ー知と技を社会につなぐ

躍進する埼玉大学

CONTENTS

- Message 埼玉大学長 上井喜彦 01
- Preview Point 埼玉大学の多彩なグローバル人材育成 02
- 注目! Close up 木の温もりと触れ合いの空間で体験型の学びを实践 03
- Focus of activation 花粉症と大気汚染との関連を化学的に解明 04
- 埼玉大学の主な出来事 05



## 皆様に愛され、親しまれる大学を目指して

埼玉大学長 上井 喜彦

埼玉大学広報誌「サイダイコンシェルジュ-SU NewsLetter-」の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

埼玉大学は1949年(昭和24年)5月31日、文理学部、教育学部の2学部をもつ新制国立大学として発足しました。その後60年余の歳月を経る間に、教養学部、教育学部、経済学部、理学部、工学部という5学部体制に拡充してきました。また、各学部の上には博士課程に至る大学院が設置されています。

いまや埼玉大学は、530名の留学生を含む約9,000名の学生・院生、470名の教員、220名の職員が学び、教え、働く、中堅総合大学へと発展し、今日に至っています。

本学では、創立60周年を迎えた2009年(平成21年)以来、「知の府としての普遍的な役割を果たす」、「現代が抱える課題の解決を図る」、「国際社会に貢献する」という3つの基本方針を掲げ、教育・研究・社会貢献の各面で新しい営みに着手してきました。

教育面では、5つの学部がすべて一つのキャンパスにあるという点を活かした全学開放型の基盤科目や学部横断的なテーマ教育プログラムなどのユニークな学士課程教育プログラムを展開するなど、教育プログラムに工夫を加えてきました。今後はさらに「国際標準の教育」をターゲットにして、大胆な改革を行っていきます。

研究面では、この数年間に「脳科学融合研究センター」と「環境科学研究センター」、「アンビエント・モビリティ・インターフェイス研究センター」を設置しました。これらは独立行政法人理化学研究所など埼玉県内にある日本有数の研究機関とも連携して、世界最先端の研究課題に取り組んでいます。

社会貢献の面では、埼玉県、さいたま市、埼玉県経営者協会と協同して「埼玉次世代自動車環境関連技術イノベーション創出センター」を学内に設置するなど、持続可能社会を支える産業の実現に向けて、産学官の連携によって本学の「知」の具体的な活用を促進しています。さらに、研究成果を市民に向けて広く発信していく連続市民講座やシンポジウム、演奏会等の開催のほか、NPOや地域社会との社会学連携にも力を入れています。こうした活動の結果、日経トレンディネットの「地域社会・文化への貢献」というイメージ項目で本学は2010年から3年連続で首都圏No.1大学に選ばれました。

また、グローバル化に対応できる人材を育成するために、海外留学プログラムや留学生受入れプログラムを組織的に強化していき、昨年9月には、教養学部を先導的取り組み学部とし埼玉大学全体の国際化を図る計画が、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されました。採択大学数が全体で42、うち国立大学が17ということを見ると、快挙と言って良いでしょう。本学は、この事業をコアにして大学全体の国際化を推進していきます。

こうした本学の取組などを多くの方に知っていただきたい、そして埼玉大学に親しみをもっていただきたいとの想いから、これまで必ずしも十分ではなかった情報発信を充実させるべく、今般、この広報誌を発行することといたしました。「研究・教育活動を多様に展開する総合大学」として飛躍しようとする埼玉大学の今後にご期待いただくとともに、皆様のご支援、ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 学長 上井喜彦プロフィール

1947年大阪府生まれ。東京大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(経済学)。埼玉大学教授、インド・デリー大学大学院客員教授等を経て、2002年経済学部長。08年4月学長に就任。

学長のメッセージが聞かれます。  
<http://saitama-president.net/aitama-u>  
 (本学トップページからご覧いただけます。)



## 埼玉大学の多彩な グローバル人材育成



「国際社会に貢献する」  
 この埼玉大学の基本方針の一つを具現化する  
 さまざまな取組が今、積極的に展開されています。

### 「内向き」から「外向き」へ

世界全体がグローバル化するなかで、日本の若い世代が内向きになっていることがよく話題になっています。また、文部科学省がまとめた「人材強化のための教育改革プラン」(2013年4月)では、「グローバル人材育成のポイント」が明示されています。

本学では、これより以前の2009年に「国際社会に貢献する」を大学の基本方針の一つとして定め、地球規模の問題解決に貢献する人材の育成を目的とした全学的な特別教育プログラム「Global Youth (GY)」を実施してきました。1年間の海外留学やインターンシップを盛り込んだ少数精鋭の選抜プログラムで、年々参加希望者が増えています。

そして2012年には、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(特色型)」に本学の取組が採択されました。教養学部を先導的取り組み学部とし「多文化理解、日本理解を含む教養と実践的な課題解決能力を備えたグローバルに活躍できる人材の育成」をテーマとしており、この取組を全学的に広げ大学全体の国際化、グローバル対応力強化を図っていきます。

採択された取組において育成する人材像は、学生が卒業・修了時に以下の条件を全て満たしていることです。

- (1) GPA2.8以上
- (2) 海外インターンシップ・プログラム修了
- (3) TOEIC700点以上(TOEFL, IELTSでの基準設定)
- (4) 2セメスター以上の単位取得を伴う海外留学
- (5) 多文化理解科目の単位要件充足
- (6) 日本理解教育プログラム修了
- (7) 第2外国語単位要件充足

この事業実施に当たり、学生に対する留学支援環境の整備の一環として、まず、今年度から英語について本来なら2年で8単位取得のところを、1年で8単位取得することができるクラスを3つ用意して、留学を目指す学生のための環境を整えました。これにより、2年の後期から留学することが可能となります。次に、留学に対する指導やケアを行うための教員2名(1名は外国籍)を採用し、留学支援体制の強化を図りました。さらに、留学前・中・後の修学支援を行うための「manaba(マナバ)」という交流サイトを立ち上げました。このサイトを通じ、留学に関する指導等が受けられることとなります。

## Column 学生たちも新しい自主的な取組を展開しています

昨年11月に、本学に在籍する外国人留学生が組織する「埼玉大学全学留学生会」主催の下、「埼玉ワールドカップ2012第1回大会」(フットサル)が開催されました。当初は留学生同士の繋がりを広げることが目的でしたが、留学生とのコミュニケーションを深めたいと考える日本企業の参画によって、予想を超えたビッグイベントとなり、今後の交流を約束するなど大会は大成功を収めました。第2回大会は5月18日(土)に開催されましたが、今回から日本人学生も運営スタッフとして協力しており、研究室やサークル活動以外の場で、学生同士や企業の国際交流の場が醸成されつつあります。第2回大会の開催の様子は、次号で紹介させていただきます。



多文化理解科目  
日本理解科目

海外留学

グローバルリーダー  
育成プログラム

海外インターン  
シップ

埼玉大学教養学部のグローバル人材育成

社会  
大学院  
グローバル人材へ

このように、学生が留学しやすい環境を整え、さらなる留学生数者の増加を図っていきます。

さらに、経済学部では、平成26年度から「グローバル・タレント・プログラム」をスタートさせます。国際機関や海外の企業で活躍できる人材を育成するためのプログラムで、実用的な英語力のみならず、国際的な視野に立って経済や経営を分析し、異文化を理解する能力の修得を目指します。

### 埼玉から世界へ

地域との協働によるグローバル人材の育成、外国人留学生受入促進にも本学は積極的に取り組んでおり、2012年には文部科学省「留学生交流拠点整備事業」の委託先としても本学が選定されています。この事業は、外国人留学生の受入れの促進を図るため、埼玉県、県内の大学や経済団体、NPO・ボランティア団体等が連携して、外国人留学生との交流を深めながら、外国人留学生の生活や就職を支援しつつ、地域経済活性化、街づくり、教育支援や観光振興等に外国人留学生の力を生かす仕組みを構築するためのモデル事業を展開するものです。

この事業実施に当たり、「グローバル人材育成センター埼玉(GGS)」が7月にオープンされます。現在、埼玉県では県内の高校生や大学生の海外留学を積極的に推進しており、GGSで「受け入れと送り出し」のワンストップの事業を展開することが可能となります。グローバル人材育成において、教育面にも経済面にも一体感をもって取り組むことができ、日本人学生、外国人留学生に対し、留学前から留学後の就職までをトータルに支援することができます。このような産学官が連携して取り組む事業は、我が国初の試みであり、他の地域等からも注目されています。これが将来「埼玉モデル」として定着し、この取組により育った人材が経験を積んで埼玉に戻り、また人材を育成する。このような人材環流が埼玉の地に根付くことが期待されます。

木の温もりと触れ合いの空間で体験型の学びを実践  
コミュニケーション能力の高い人材の育成へ。



教育学部 石上 城行 准教授



2012年に策定された「埼玉大学キャンパスマスタープラン2012」の施設整備方針に則った施設改修の第1号として、教育学部D棟が新しく生まれ変わりました。

D棟改修プランの大きな特長は、「学生の質的向上」「地球環境への配慮」にあります。

「学生の質的向上」は二つの部屋の造りに現れています。建物中央部北側に配置されたプロジェクト室は、中学校の技術・美術の教室を再現した造りになっており、ここで実際の現場の雰囲気や模擬授業や教材研究が行えます。これまで教育実習の1カ月間くらいしか体験できなかった現場の空気を、いつでも感じることができると言えます。また教員免許更新講習など教員向けの研修においても活用したいと考えています。

中央部南側には多目的コミュニケーションスペースを設け、その周りを囲むように美術教員の研究室・準備室を配置しています。コミュニケーションスペースに面した研究室の壁はガラスを採用し、開放感を演出しています。コミュニケーションスペースは天井が高く北側からの自然採光と木の質感とも相まって、優しい開放感の溢れる場になっています。ここは何にでも使える、多様でオープンなスペースとして利用していきます。いつも何かが行われ、誰かいるという状況が常態化することで、学生の多様性、対応力、コミュニケーション力が醸成され、質の高い教員に育っていくことを期待しています。

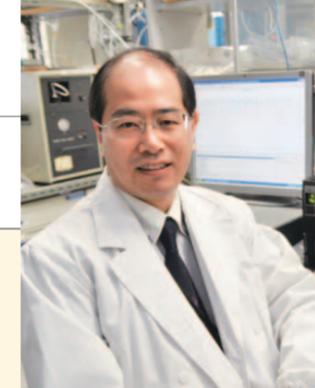
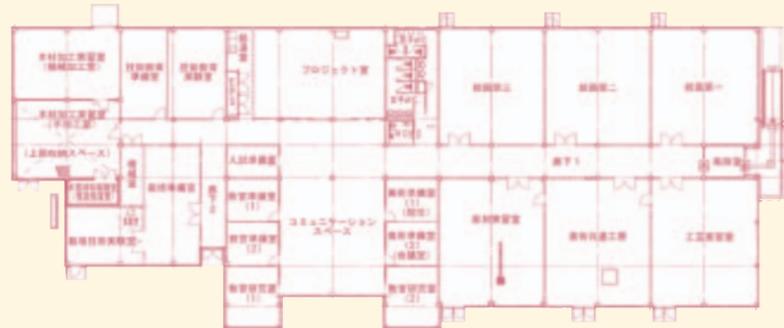
「地球環境への配慮」については、木造平

屋建てという造りに表れています。製造時にコンクリートや鉄に比較してエネルギー消費の少ない木材を使用。また木材の多くを埼玉県秩父産の杉や米松など、県産材の集積材を使用し、地産地消にも貢献しています。照明は一部LED化し、空調は電気ヒートポンプエアコンの採用で電力消費の低減にも配慮しています。他には、出入口、フロア全体に段差のないバリアフリー設計、ユニバーサルデザインを取り入れ、安心・安全・快適なキャンパスライフを実現しています。

新しいD棟は、学生や教職員だけの施設にとどまることなく、ひろく明日の教育が生まれる場として機能することを願っています。

埼玉大学の  
生まれ変わった学びの場  
木造平屋建て「教育学部D棟」

- 構造/W1(木造平屋建)
- 建築面積/1,451㎡
- 延べ面積/1,415㎡
- 建築工事/木質2方向ラーメン構造 柱:杉(埼玉県産)、梁:米松
- 電気設備/高効率照明器具(一部LED)採用
- 機械設備/高効率空調機(電気ヒートポンプエアコン)採用
- 主な部屋/実習室、工房、コミュニケーションスペース、人工気象室、恒温恒湿室



大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 / 兼研究機構・環境科学研究センター 王 青躍 准教授



花粉症と大気汚染との関連を化学的に解明  
グローバル的な視点で対応策を見つめる。

PROFILE

1992 : 埼玉大学大学院 博士前期課程修了  
1995 : 埼玉大学大学院 博士後期課程修了 工学博士  
1982~1988: 国立上海非鉄金属研究所 化学研究室 研究員、チームリーダー  
1995~2001: (社)国際善隣協会 環境推進センター 首席研究員兼環境事業部長  
1997~2000: 国立環境研究所 客員研究員・国立埼玉大学 非常勤講師兼任  
2002~2005: 埼玉大学大学院 理工学研究科助教  
2005~ : 現在に至る 埼玉大学大学院 理工学研究科准教授

各マスメディアでの活躍

花粉飛散期において、大気汚染、PM2.5、黄砂と花粉アレルギー物質による人体複合的影響などの関連研究の第一人者、各新聞、雑誌のインタビューやラジオ、テレビでの解説などで活躍。

ためしてガッテン(NHK・総合) / おはよう日本(NHK・総合) / みのもの朝の朝ズバリ(TBS) / 報道ステーション(テレビ朝日) / ひるおび(TBS) / はなまるマーケット(TBS) / やじうまテレビ(テレビ朝日) / めざましテレビ(フジテレビ) / プライムニュース(BSフジ) / サンデー! スクランブル(テレビ朝日) / ワイド! スクランブル(テレビ朝日) / NEWS ZERO(日本テレビ) / 情報ライブ ミヤネ屋(日本テレビ)を始め多数出演。

大気中の汚染物質との相互作用が、  
花粉アレルギー性を増悪させる。

2013年3月の時点で、都内に住む3.5人に一人が花粉症を発症していると言われていて、これは2月から4月にかけてのスギ花粉に限らず、5月頃のヒノキ、8月頃のブタクサと、ほぼ通年にわたる現代病と捉えてよいでしょう。これまでは花粉の飛散量が患者数に関わる原因と考えられてきました。しかし、大きなファクターではあるものの、それだけではないことが私の研究から解明されています。大気中に移流・浮遊する、さまざまな汚染物質と花粉との接触により引き起こされる作用が、重篤な因果関係をもって私たちを苦しめているのです。

スギ花粉症に例えると、実際に花粉症を発症させる原因になるのは、花粉の表面に付着しているCry j1と、花粉内部にあるCry j2というアレルギー物質(抗原)です。それらの抗原が花粉から分離し、人体内に侵入して抗体と結合することで発症します。花粉自体は大きき約30ミクロンと大きいので、直接に呼吸器系深部に入り込め

ませんが、アレルギー物質は1.0ミクロン以下の大きさのため、簡単に体内に侵入し、呼吸器系深部の肺胞にまで到達してしまいます。花粉は自然に浮遊している状態でも割れ(爆発)して、アレルギー物質を放出しますが、その分離を助けアレルギー物質放散を増長するのが、大気中の汚染物質です。春先では黄砂が広く知られています。他には自動車排気ガス、ゴミ焼却・工場排煙などの燃焼煙源からの炭素成分、金属成分、硫酸塩や硝酸塩、つまりいま話題のPM2.5などがそれにあたります。

大気環境化学と生化学の融合的研究が先導し、  
世界の花粉症患者を救う日が来る。

自然な状態で割れる花粉は約2割程度です。しかし、大気汚染物質と接触した場合、約8割が爆発します。文字通り爆発的にアレルギー物質が拡散するのです。さらに危険なのは、花粉のアレルギー物質だけでなく、例えばPM2.5中の硫酸塩などと一緒に存在すると、爆発しやすくなり、それに含まれる有害物質とアレルギー物質も1.0ミクロン以下(PM1.0)として放出されることです。

それらの有害物質は気管支炎や喘息を誘発させたり、新たな変性したアレルギーをつくる可能性のあることが解ってきました。結局、花粉アレルギー物質を修飾してアレルギー性の増悪に作用するという計測結果も私の研究室から発見しました。

このように長年、花粉症と大気汚染物質との関わりを研究し、警鐘を鳴らしてきましたが、ここにきてようやく注目され、私たちの研究はその次のステージに移りつつあります。対策方法としては、企業との共同によるアレルギー物質を除去する空気清浄機の開発や吸引を防ぐマスクの提案です。しかし、もっと重要なことは、根源であるアレルギー物質をいかに減らせるかだと考えています。しかも日本一の問題ではなく、欧米などを含めて世界的な問題と捉えています。大気中有害物質対策の先進国として、日本はその技術と情報発信をもっと世界に対して行うべきで、埼玉大学大学院理工学研究科または研究機構環境科学研究センターが、その役割を充分担えると思っています。

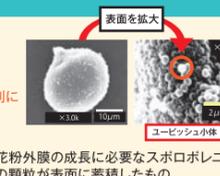
スギ花粉の主要アレルゲン

スギ花粉症発症の原因物質はスギ花粉主要アレルゲンであり、Cry j1とCry j2の2種類が知られている。

Cry j 1: ユーピッシュ小体(粒径約0.7μm)

花粉外壁に局在している。

Cry j 2: 花粉内膜やデンプン粒に局在している。



ユーピッシュ小体: 花粉外膜の成長に必要なスポロポロレンの顆粒が表面に蓄積したものの。

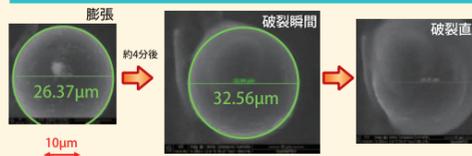
スギ花粉アレルゲン(Cry j 1)の化学的変性



スギ花粉アレルゲンは0.06~2.1ミクロン程の小粒径にも削減されたため、人体下気道への侵入容易!

上空でのCry j 1が変性・修飾し、抗体との反応性が強くなり増悪可能性あり!

スギ花粉は破裂(爆発)してアレルゲン物質を放出します!



湿度100%を超えた直後の花粉粒径は26.37μmであったのに対して、破裂直前では32.56μmとスギ花粉粒が膨張・破裂していく様子が低真空電子顕微鏡(FEI社製走査電子顕微鏡Quanta200)にて観察できた。

- ①スギ花粉飛散期、山間部からスギ花粉粒子が飛散
- ②移流中にCry j 1を含むユーピッシュ小体が剥離
- ③都市部の大気汚染物質によるユーピッシュ小体中のCry j 1が化学的に変性・修飾する可能性

変性・修飾したCry j 1が呼吸により気道内への侵入

都市部におけるスギ花粉症の有病率が増加??

Column

私のもう一つのテーマが  
高度な環境化学の  
人材育成です。

中国、インドを含むアジア圏は経済発展と対を成す大気汚染が問題になっています。私の研究室ではアジア諸国からの留学生が多く学んでいます。彼らが自国に戻り、学んだ技術や知識を生かして環境インフラの整備や制度改革を行うことで、大気汚染を減少させ、結果として大気汚染や花粉症の抑制につながるかと考えます。もちろん日本人学生も積極的に海外の環境活動に参加させたり、学会や研究会でどんどん英語の論文を発表させたりして、そうした国際的に通用する高度な環境化学人材を育て、学生諸君を鍛えることができるのです。

王 青躍 研究室 URL [http://park.saitama-u.ac.jp/~wang\\_oseiyo/index-j.php](http://park.saitama-u.ac.jp/~wang_oseiyo/index-j.php)



The photograph concerning 01



The photograph concerning 03



The photograph concerning 05



The photograph concerning 07



The photograph concerning 09



The photograph concerning 11

### 01 連続市民講座を開催

本学と読売新聞さいたま支局共催の連続市民講座「埼玉学のすすめpart3」を7月から12月にかけて開催しました。この講座は、本学の創立60周年記念事業の一環として平成21年にスタートしたもので、3度目の開講となる今回は、東日本大震災以降再認識された「絆」をキーワードに、「共に生きる・共に学ぶ・共に創る」を共通のテーマとして、地元埼玉を中心とした6つの話題を本学の教員が研究成果や学問的知見をもとに紹介しました。毎回会場は満席となり、受講者からも「是非来年も開催してほしい」との声が多数寄せられました。

### 02 埼玉大学連続講座「社会に学ぶ2012」を開催

10月から12月にかけて、埼玉大学連続講座「社会に学ぶ2012「企業人という生き方はどうおもしろいのか」を埼玉経済同友会のご協力の下開催しました。この講座は、県内の優良企業を育て牽引してきた経営者を迎えて、数年後には社会人となる学生に対し、企業活動の社会的意義、企業人として生きることの厳しさとおもしろさを語っていただくとともに、参加学生と経営者が直接対話する機会も設けたものです。参加した学生からは、「今回、直に企業人の魅力に接することができた。」「働くこととは、厳しさや苦しさや表裏一体の楽しさや喜びに出会うことであって、出会いと繋がりを実現する大きな機会であることを学んだ。」など、多くの感想が寄せられ、大変有意義な講座となりました。

### 03 「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催

11月11日(日)、埼玉りそな銀行本店講堂で、今年で9回目となる教育学部音楽専修生による音楽会「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催しました。このコンサートは、地域貢献を目的とした連携協定の締結を契機に、埼玉りそな銀行の多大なる協力を得て毎年開催しており、音楽専修生の日頃の練習成果を発表し、市民のみならず音楽を通じた楽しいひとときを過ごしていただくものです。今回は、市内の方を中心に約220名の来場があり、馴染みの深い曲から童謡まで取り入れ、幅広い年齢層の来場者を魅了し、また、ユーモラスな衣装・動きで会場を沸かせる場面があったりと大変好評でした。

### 04 「音楽の贈りもの」を開催

12月8日(土)、さいたま芸術劇場音楽ホールで、教育学部音楽教育講座教員によるコンサート「第13回音楽の贈りもの」を開催しました。このコンサートは、本学の社会貢献活動の一環として毎年実施しているもので、今回も会場である音楽ホールには、地域住民や学生などを合わせて定員が満員となる約600名の来場があり、しっかりと地域に定着したコンサートとなっています。今回から演奏者が自ら解説を行うスタイルで行われ、ユーモアを交えた曲の紹介もあり、コンサートは大いに盛り上がりしました。

### 05 グローバル人材育成国際シンポジウムを開催

1月23日(水)、浦和ロイヤルバインズホテルで、第1回グローバル人材育成国際シンポジウム「伝統と現代 一國境を越えてアジアを考える」を開催しました。このシンポジウムは、韓国の東國大学校との共催で埼玉県後援の下、平成24年度文部科学省「グローバル人材育成推進事業」により行ったもので、「仏教思想ができることは何か」というテーマを掲げ、今回、客観的かつ広がりのある議論を目指して、韓国やスリランカといった仏教に造詣の深い国の仏教学者のほか、アメリカ、ドイツ、イギリスといった欧米諸国の仏教学者も招聘し、招聘教授によるプレゼンテーション・パネルディスカッションを実施しました。シンポジウムには約100名の参加者のほか、報道陣の取材もあるなど大いに盛り上がりしました。

### 06 附属学校フォーラムを開催

教育学部は2月27日(水)、「附属学校におけるICTを活用した授業づくりー地域の先進的モデル校を目指してー」をテーマとした附属学校フォーラムを開催しました。このフォーラムは、教員養成段階での活用等の課題、求められる附属学校と大学・学部の有機的連携、授業開発等について、地域の教育関係者とともに考えていくことを目的に開催したもので、教育委員会関係者ら約100人の参加者があり、ICT機器活用の授業実践を通して、有用性、方向性を確認し合う場となりました。

### 07 技術発表会を開催

総合技術支援センターは3月4日(月)、「第23回技術発表会」を開催しました。この技術発表会は、技術職員が日常業務を通じて獲得した技術的成果を発表して意見交換を行うことにより、資質の向上を図るとともに、技術交流を深めることを目的として行っているものです。今回、大学院理工学研究科の三浦 弘教授による「水素エネルギーシステムに使われる触媒の化学」と題した特別講演、6件の口頭発表と7件のポスター発表が行われました。発表会には本学教職員のほか、他大学の技術職員の参加もあって、活発な意見交換が交わされ、技術交流を深める有意義な一日となりました。

### 08 構内にEV・PHEV用充電ステーションを設置

現在、クリーンでエコな電気自動車(EV)やプラグイン・ハイブリット車(PHEV)の普及が期待されておりますが、埼玉大学では次世代自動車の研究教育用に構内にEV・PHEV用の充電ステーションを設置しました。充電ステーションには、100V/200V対応の普通充電器と50kW急速充電器があり、急速充電器については(株)高岳製作所様から本学に寄贈されたものです。今後、充電ステーションは、本学教職員等にモニタ登録をお願いして広くご利用頂く予定であり、モニタの方々のご意見を頂戴して次世代自動車の研究に役立てていきます。

### 09 セミナー「東北地方太平洋沖地震津波による被害から見た海岸林整備に関する今後の課題」を開催

環境科学研究センターは3月21日(木)、「東北地方太平洋沖地震による被害から見た海岸林整備に関する今後の課題」をメインテーマとしたセミナーを開催しました。セミナーでは、工学的な視点からの説明や、流木化した樹木が内陸の家屋群の破壊に及ぼす影響(短所)と海岸林そのものが津波を低減した効果(長所)を比較した知見の報告、さらに、生態学や林学の立場から問題点や課題が議論され、海外の津波防災林の被災事例の紹介と、わが国への適用の可能性に関する説明もありました。発表後、Q&A形式でのパネルディスカッションも実施されました。

### 10 公開シンポジウム「サッカーと地域社会」を開催

教養学部は3月22日(金)、公開シンポジウム「サッカーと地域社会」を開催しました。このシンポジウムは、浦和レッズと大宮アルディージャとの共催でさいたま市の後援の下、イタリア・セリエAとJリーグの両者におけるサッカーと地域社会の関わりを、トリノFC、浦和レッズ、大宮アルディージャのスタッフとともに探ることを目的としたもので、トリノFCからはマーケティング・広報責任者であるAlberto BARILE氏を、また浦和レッズから白戸秀和社長補佐、大宮アルディージャから久保田剛事業本部長

をパネリストとして招聘し、山本充本学教授を加えて、パネルディスカッションを実施しました。

### 11 平成24年度大学卒業式を挙

3月25日(月)、大宮ソニックシティ大ホールにおいて、平成24年度埼玉大学卒業式を挙行し、上井学長から各学部卒業生の代表者に学位記が授与されました。学長の式辞、卒業生代表の挨拶に続き、来賓としてお招きした本学同窓会会長である杉尾彰俊様よりご挨拶をいただき、次いで、教育学部竹澤栄祐教授の指揮により、埼玉大学管弦楽団による「埼玉大学祝典序曲」の演奏と、埼玉大学合唱団も加わっての「埼玉大学大学歌」の斉唱が行われ、閉式となりました。

### 12 平成25年度入学式を挙

4月8日(月)、大宮ソニックシティ大ホールにおいて、平成25年度埼玉大学入学式を挙行しました。上井喜彦学長からの式辞、理事等の紹介に続き、本学教養学部の卒業生で、本学客員教授でもある加藤基氏による「よりグローバルに、次代を担う皆さんに強く期待」と題した特別講演が行われました。その後、教育学部竹澤栄祐教授の指揮で、本学管弦楽団による入学を祝った「ジャン・シベリウス作曲『カレリア』組曲(作品11)」より「第3曲『行進曲風』」の演奏があり、次いで、オーケストラ伴奏による「埼玉大学大学歌」を本学合唱団とともに斉唱し、閉式となりました。



The photograph concerning 02



The photograph concerning 04



The photograph concerning 06



The photograph concerning 08



The photograph concerning 10



The photograph concerning 12